

武漢事務所便り週間新聞記事報告 2010.08.7 - 2010.08.13 18 号

2010 年 8 月 10 日付け「長江ネット」により

今年 1～7 月、9 万人以上の日本人が湖北省へ旅行

今年 1 月から 7 月まで湖北省への日本人旅行者数は 92,958 人に達した。13 日、湖北省旅遊局の情報によると、湖北省へ旅行した日本人観光客数は 1997 年の「さらば三峡」企画以来、13 年ぶりの旅行ブームとなった。

1997 年、湖北省を訪れた日本人観光客は 95,000 人で、武漢旅行業界の人の話によると、当時の賑やかな光景は今でもありありと目に浮かぶという。同スタッフは「当時、『さらば三峡』の旅行計画は、短期的な利益の追求しか考えていなかったようです」。その結果、1997 年の日本旅行者数は 5 割増加したが、それ以後、日本から湖北省への旅行者数はずっと少ないままである。

去年、映画「レッドクリフ」が日本で上映後、日本で再び三国志旅行のブームが起きた。湖北省旅遊部門はその勢いに乗り、今年を日本旅行の販促年として、日本に赴いて三国コースを宣伝し、日本で「三国ブーム」を起こした。今年「5 月 1 日」及び 8 月 11 日、日本から 1 回につき 2 機のチャーター機を同時に派遣した。このような大規模な旅行派遣はめったにないことである。今年 1～7 月、日本からの観光客は既に 92,958 人に上り、1997 年の記録にほんのわずか及ばないものの、歴史的な記録を達成した。

2010 年 8 月 7 日付け「長江ネット」により

武漢市の農民一人当たりの平均現金収入の増加率は 19 都市のうちトップ

武漢市農業局の統計データによると、今年上半期の農民一人当たりの現金収入

は 4834 元であり、前年同期比で 16.5% 増、増加率は全国 19 の副省レベル以上の都市の中でトップになった。

3 年前、武漢市農民の一人当たりの収入増加率は 11 位だったが、2007 年から急速成長期に入り、13.1% の増加率に達した。2008 年に 19 の副省レベル以上の都市の中で第 3 位に上り、2009 年の国際金融危機の悪影響の下でも、変わらず 2 桁の成長率を保ち、今年上半期に「トップ」になった。

武漢市農民の収入構成は今までと比べ、変化した部分がある。武漢市農業局の分析によれば、例年、家族経営による(即ち、伝統的な 1 次、2 次、3 次産業による収入)が最も大きかったが、現在では、給与による収入が最も大きくなっている。今年 1 月から 6 月まで、武漢農民の給与による収入は 1789.42 元(23,262 円: 1 元 = 13 円、以下同様)で、前年同期比 20.3% 増、現金収入に対する貢献率は 44.2% に達している。

給与収入の増加には二つの原因がある。

1. バイト代の増加。

農民工の主なバイト先である建築改装業を例をあげると、住宅リフォームの大工の日給は現在 110 元だが、去年の同期は 80 元に満たなかった。

2. 郊外地区における新型工業化の急速な進展により、農業工の給料収入も同時に上昇した。

上半期、郊外地区における一定規模以上の工業総生産額は 687.8 億元(8941.1 億元)に達し、前年同期比 34.1% 増、一定規模以上の工業増加値は 200.9 億元(2611.7 億元)であり、前年、同期比 30.6% 増加した。二つの増加率は両方 30% 以上に達し、農民にとって、家の近辺で就職するために有利な条件が揃った。